

AOI
Group

経営編

上海便り 2007年1月号

【情報提供】 【編集 / 提供】

(株) 葵ビジネスコンサルタンツ

東京本部: 横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12 2F

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.aoibc.com> E-mail: aoi@aoibc.com

中国果物について

中国: 上海の果物は、なんで美味しくないの？

上海で、中国で食べている果物が美味しくないと思っている方も多くいますので、その理由を専門家に聞いてみました。その原因は「早く金銭にしたいので、果物を未熟なうちに、出荷しているからだろう」と教えてくれました。

華南地区の工場に勤務していた日本人総経理の経験談からです。その工場にはマンゴウの木があって、毎年熟して、美味しそうになりますので、食べるのを楽しみにしていました。

でもモウ2~3週間で熟すると思われる時期に、必ず全てのマンゴウが毎年、採られてしまいましたので、一度も食べる事はできませんでした。そこで総経理が、ある年にまだ熟さない時期に美味しそうなる数個のマンゴウに「**総経理用**」と札を貼り付けて『今年こそは賞味するぞ!』と毎日、毎日楽しみにしていました。

後3週間、後2週間と思いつつ例年ならば、この時には全てのマンゴウが採られていたのが、まだマンゴウは残っていると楽しみに見守り続けました。

後1週間、後4日間、そして「後2日間」で食べられると予想した、その翌日に出勤すると「**総経理用**」マンゴウも全く見えなくなっていました。

アドバイス

果物を未熟なままで出荷する理由は、「**他者に略奪される前に**」自分で採って食べたり、お金にしたりするためのようです

と言う事は、果物宝石と評価されている「高級サクランボ: 佐藤錦」が今年も山形県で大量に盗難にあったニュースが新聞やTVを賑わせました。数年すると中国と同じ状況になるのか、それとも日本的な解決方法として「見張り役口ポット」を作り、泥棒の監視を行わせるのでしょうか？

其の他の果物について、

日本に住んでいる方には残念で、可哀想な情報になりますが、上海のスーパーで販売している、美味しい『ハミ瓜』の価格はラクビーボール程度の大きさでも「約200」日本円から売

っています。最初は物珍しく購入して食べていましたが、永く住むとモウ飽きてしまい買って食べる事も無くなりました。今では、料理店で最後に出るデザートとして食べる程度です。

そして、リンゴでは「美国」(アメリカ)や「オーストラリア」産のリンゴだと、1 山とか、1kgとかでスーパーでも販売していますが、日本産リンゴになると『1個』の価格でデパート等の高級店舗で丁寧に包装されて販売されています。ミカンでも、桃でも、梨でも、工業品と同じく『Made in Japan』の果物は、高品質・高価格と見られているのでしょうか。上海に長く住んでいますとこの価格が大変気になります。1 桁多すぎるのではとか、間違っ「0:ゼロ」を多くしたのではと考えてしまいます。

桃についてですが面白い事に、中国:上海では扁平な【桃】を売っています。味は普通の桃と同じですが、形状は円盤型で平らになっています。最初は珍しがって、購入しましたがやはり桃はボール状の方が食べた気になります。

次に、イチゴやサクランボのように皮を剥かずに食べる果物についてです。これにも強烈な残留農薬の危険性もありますので、注意が必要になります。この農薬問題については、日本に住んでいる人の方が詳細に知っているようです。(F記)

誤差は「0:ゼロ」です ? ? ? ?

業界が違くと発想が変わってきました。

日本の労働省関連で(財)海外職業訓練協会(OVTA)と言う海外進出への相談・セミナー業務やコンサル業務を実施している機関があります。

この度、OVTA に登録している東京事務所の国際アドバイザーを中心にして、自主的な『中国』グループを作り、中国の情報交換や相互の業務支援・勉強会の開催を行いたいと考えていました。06年12月中旬に最終的な意見の打ち合わせで代表者:3名が集まりました。その打合せ終了後に、いつものように居酒屋へ慰労ですが、その時の会話をご紹介します。(OVTA-Chinaのメンバーはその道の専門家であり、尚且つ中国に関しても知識を有している人々です)

代表者の3名は、建設・レンズ製造・会計の専門家です。最初は、誤差がどうなっているかとの会話から始まりました。「うちの業界だと[mm]までならOKです」と建設専門家から、次に「うちの業界だと[ミクロン]単位までです」とレンズ製造専門家から、そして、最後に会計業界からは「誤差は[0:ゼロ]です」「許されません!」との発言が出ました。

ここで、「誤差」を『遊び』と考えみると誤差が[0:ゼロ]の場合は、車のハンドルで遊びが無いような状況になって、逆効果で大きな問題が発生するでしょう。故に、各業界で誤差の【許容範囲】が違っていると考えられます。許容範囲に関しては、製造業では『公差』になり、逆に最小の必要とされる範囲の数字になります。

振り返ってみると、中国系メーカーで多いと言われている「不良品」に関しては、【誤差の許容範囲】の相違だと推測されますし、「信用」や「信頼」に関しても【誤差の許容範囲】の相

違だとも判断されます。

アドバイス

誤差の許容範囲を正確に、明確に規定して、その理由も教える。

：検品になると検品実施者が判るようにして、責任を持たせる制度を構築する。そして、工場のレベルを向上させる

(F記)

